

2003 年 5 月 19 日

## 殺虫剤分野でのベルギー、ゲノム・ベンチャーとの提携について

住友化学はこのたび、ベルギーのアントワープ市郊外に本社を置くゲノム研究のベンチャー企業、デブジェン社（社長：T. ボガート博士）との間で、新規殺虫剤の標的（ターゲット）探索と効率的スクリーニング実施のための共同研究契約を締結しました。住友化学としてゲノム技術を農業化学の分野に応用することによって、殺虫剤として有望な化合物を高速スクリーニング技術により迅速に見だし、販売開始までの期間の短縮を目指すものです。

デブジェン社は 1997 年に設立されたベンチャー企業で、大量の遺伝子やタンパク質に関する情報をコンピューター処理するバイオインフォマティクス技術において世界最高レベルの技術を有し、特に線虫<sup>センチュウ</sup>のゲノム（遺伝子の構造、機能）に関する膨大なデータベースを蓄積しています。線虫は比較的単純なゲノムを持ち、遺伝学の研究材料として非常に扱いやすいので、遺伝子の機能を解析するための有力なモデル生物です。このため、医薬品や農薬の標的となる遺伝子を科学的に同定し、その標的に基づいた薬剤の評価システムを構築するのに最も適した生物の一つと考えられています。

住友化学は優れた化合物合成技術をもとに、殺虫剤はじめ除草剤、殺菌剤などの創薬型農業薬品メーカーとして、世界有数の地位を保っています。今回の提携では、デブジェン社が新規殺虫剤の標的となる遺伝子を探索し、その遺伝子に作用する化合物を高効率に選別するスクリーニングシステム（ハイ・スループット・スクリーニング）を構築します。住友化学がこのシステムを導入することにより、自らが設計した数多くの新規化合物の中から、殺虫剤として有望なものを効率的に選別することができるようになります。

住友化学は現在推進中の中期経営計画において、ライフサイエンスを選択と集中の方針に基づく最重点分野の一つと位置づけ、農業化学・医薬部門の拡大と強化を進めています。農業化学の分野では、大手農薬メーカーとの競争が激化しており、事業を一層拡大するためには新製品ラインの充実が急務であり、研究開発力を強化し自社による新製品開発力を一層高める必要があります。ゲノム創薬研究は、創薬研究の効率化に有効な手法であると考えられ、住友化学ではゲノム科学研究所を 2000 年に設立しました。医薬分野では既にいくつかの新規医薬標的候補遺伝子を見いだしています。このたびの共同研究契約締結により、最新のゲノム創薬技術を導入することで農業化学分野におけるゲノム研究がさらに充実し、新規殺虫剤の早期開発が促進されることが期待できます。